

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

ゲロッパ!

配給/シネカノン

2003 (平成15) 年6月24日鑑賞

<東宝・東和誠写室>

Data

監督：井筒和幸

出演：西田敏行/常盤貴子/山本太郎/岸部一徳

👁️👁️ みどころ

これは面白い。西田敏行は『釣りバカ日誌』だけの役者じゃない。すごい役者。そして、元「ザ・タイガース」の岸部一徳もいい。また、健気に生きる娘を演ずる常盤貴子は最高。バカバカしい映画だと思いつつ見始めたものの、途中からは笑いと思わず涙が……。こんな映画大好き！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ゲロッパとは>

ちいちゃなヤクザ羽原組の組長、羽原大介（西田敏行）は数日後に刑務所への収監が決定している身。彼は第1の子分太郎（山本太郎）をはじめとする可愛い3人の子分に対して、「組を解散」、「堅気の生活に戻れ」と命令する。

羽原組長の弟分の金山組組長金山正雄（岸部一徳）は羽原組長が思い残すことがないよう、何でも力になると誓う。血はつながっていなくとも、ヤクザの親分と子分はオヤジと息子。ちょっとマンガっぽくて、臭い(?)ものの、この男と男との熱い絆はラストまで続く。バカバカしいけれども、いいものだ。

羽原組長はジェームス・ブラウン（JB）が大好き。JBは「SEX MACHINE」をはじめとする、ソウルミュージックの旗手、帝王だ。

「ゲロッパ」とは、このジェームス・ブラウンが唄う名曲「SEX MACHINE」の歌詞の中にある「Get up」すなわち、「起きろ!」「奮い立て!」という意味だ。

ジェームス・ブラウン一筋は金山も同じ。しかし、オヤジだと思ってバカにしてはいけない。羽原組長、金山組長の2人とも中年オヤジだが、その音楽センスやダンスのステップはプロ並みだ。

＜健気な一人娘常盤貴子＞

羽原組長の一人娘、上原かおり（常盤貴子）は、少女時代に、銭湯の中で、父親のヤクザ抗争を目のあたりに体験した。そして、母親とも死別。そのため、かおりは一人悲しく寂しい環境の下で育ったが、美しくかつ逞しく成長し、今やモノマネ芸人を率いる芸能プロダクションの女社長だ。

森進一、美空ひばり、桑田佳祐の「そっくりさん」を率いるかおりと収監を控えた羽原組長は、ある時新幹線の通路でばったりと遭遇した。もちろんお互いの立場などわからない見ず知らずの者同士としての偶然の出会いだ。しかし、この時羽原組長は、思わず「あんたいい女だね」とうなってしまった。

＜組長の願いは・・・＞

羽原組長は、せめて収監前にジェームス・ブラウンの名古屋公演を見たかったが、もはやそれはムリ。そして収監前に、25年間も会っていない娘のかおりにせめて一目会いたいものの、それもムリ・・・。

しかしここで、弟分の金山は、羽原組の子分たちにとんでもない命令を下した。すなわち、「今すぐ、日本に来ているジェームス・ブラウンをさらいに行ってこい！」というのだ。

ジェームス・ブラウンをさらってきて、羽原組長の目の前で、その唄と踊りを見せてやりたい・・・。何という、熱い男の友情だ、と思わず涙・・・は出ないものの、そのドタバタぶりは見ているとすごく面白い。

＜最高のドタバタ劇＞

話を面白くしているのは、ジェームス・ブラウンにも本物とニセモノがいること。そして、ニセモノのジェームス・ブラウンは、かおりが蒲郡にあるリゾートホテル「ラグーナ蒲郡」での公演のために契約していたのだった。羽原組の子分たちによる、このジェームス・ブラウンの「拉致」騒動、かおりのラグーナ蒲郡公演をめぐるラグーナ蒲郡ホテルの支配人との駆け引き、そして、ニセモノのジェームス・ブラウンが何らかの国際犯罪に絡んでいると目をつけた内閣調査室のエリートたちのちょっとボケた捜査の展開、etc、見せ場は数多く、非常に面白い。

＜芸達者な役者達＞

この映画では、西田敏行の芸達者ぶりが惜しげもなく、披露されている。

その第1は、ペットのワニを使った「借金取り撃退劇」。西田敏行の見事なお芝居により、1000万円の借金を棒引きにさせたうえ、借金取りをみごとに撃退だ。

第2は、タクシーの女運転手（寺島しのぶ）との「お涙ちょうだい劇」。25年ぶりに娘かおりに会いに行く父親西田敏行と、逆に父親を失ったばかりのタクシー運転手寺島しの

ぶとのやりとりは、掛け合い漫才の名人芸ともいうべき見事なもの。バカバカしいと思いつつ、思わず涙がボロリ……。

第3に、岸部一徳とその妻藤山直美のジェームス・ブラウンへのぞっこんぶりもすごい。そのダンスのステップは超一流だ。

そしてまた、未婚の母となったかおりの一人娘の太田琴音もさすがにしっかりもの。おじいちゃんとの「ご対面」をしっかりこなしたうえ、その後の「父娘の再会」に向けての演出も大したもの。しっかりものの娘には、しっかりものの娘が生まれるのか……。

その他、2時間弱のストーリーの中に、芸達者な役者による面白い絡みが盛りたくさんだ。

＜父娘のご対面には、マジに涙……＞

ドタバタ劇の展開の中、ついにラグーナ蒲郡で、父娘が「ご対面」。しかし、しっかりもののかおりは、今頃になって急に父親を名乗って出現した羽原組長を拒否した。しかし、他方、芸能プロダクションの社長のかおりに危機が迫っていた。すなわち、契約していたはずのニセモノのジェームス・ブラウンが舞台に現われないのだ。もしこのままジェームス・ブラウンが出演しなければ、ラグーナ蒲郡での公演は契約違反となり、収入がゼロになってしまう。さてどうすればいいのか……。

ここで、芸達者なヤクザの組長羽原大介の登場だ。羽原組長は、一人舞台へ。そして短い足で、華麗なステップを踏みながら、ジェームス・ブラウンの「SEX MACHINE」の熱唱だ。かっこいい。「男は顔じゃない、スタイルじゃない、心だ！」と思わず叫びたくなるほどに、納得！

ステージでの大役を終えて、一人去っていく父親を追っかけるかおり。ナミダ、ナミダの中での父娘のご対面だ。常盤貴子もいい役者になったものだ。バカバカしいと思いつつ、私の頬にも大粒の涙が……。

＜とにかく最高！＞

この映画『ゲロッパ！』は全く期待しないで観に行ったものの、以上評論したようにとにかく楽しい。そして、単純に涙が……。

映画とはこうありがたいもの。皆さんにも是非この映画をお薦めしたい。

2003（平成15）年6月25日記